

技術委員会より

技術委員長 徳永 雅亮

(明治大学)

本年度は日本海側の大雪で年が明けました。また、1/Eには新燃岳の火山活動にもびっくりさせられました。北アフリカのチュニジア、エジプト、リビア、スーダンや中東のバーレーン、イエメン等で既存勢力に対する民衆のかなり激しい民主化デモが見られます。3月11日(金)に発生したM9.0の東日本大震災は空前の被害を東日本、特に東北地方にもたらしました。東北地方に生産拠点があり、被害を受けられた会員の皆様に心からお見舞い申し上げます。今回の大震災は津波による被害が大きく、行方不明の方々の数が1万人以上と大きいことが特徴です。福島第1原発の事故も「原発震災」が現実のものとなり、対症療法的な対策と同時に、長期的な原発の安全面での検討が再度浮上しました。「がんばれ東北。がんばろう日本。」と海外からの励ましも寄せられていますが、日本人一人一人が自覚を持って前進することが必要と思われま

す。平成22年度後半の技術委員会の活動状況を報告します。まず、12月3日開催の2010年BMシンポジウムは「永久磁石及びモータ開発等に関する最新技術動向」と題し、永久磁石応用3件、永久磁石材料2件、ワイヤレス給電技術1件および中国の希土類磁石に関する状況2件で、各分野の著名な講師の先生方に最新の動

向をご講演頂きました。中でもDyフリーのNdFeB系異方性ボンド磁石と希土類磁石を使用しないモータの開発に関する発表は現状のNd、Dy金属の価格高騰およびDyの枯渇が懸念される希土類原料の状況への対応方法の例を示したと言えます。詳細は本BMニュースを参照下さい。

5月19日(木)開催予定の第79回技術例会の内容がほぼ決定しています。永久磁石が主題となりますが、希土類原料1件、ボンド磁石材料1件、磁石応用2件および保磁力メカニズム関連2件の予定です。会員各位の参加をお願い申し上げます。

すでに恒例となりましたBM寺子屋塾については第8期講座が終了しております。本講座では「徹底解剖：ネオジム焼結磁石」と題し、材料、製造方法およびその応用について全3回(9月24日、10月22日および11月19日)の寺子屋塾を開催しました。講義は徳永が行いましたが、多くの方々に参加頂き、楽しく勉強することができたと思います。浜野塾長の計画と小生を講師として指名して頂いたことに感謝申し上げます。本年度前期開講の第9期講座は「入門講座：ボンド磁性材料の基礎と応用」と題し、全3回の計画で開催します。内容は第1回：「ゴム・プラスチックとフェライト系ボンド磁石」(芳賀美次アクテム代表、5月13日)、第2回：「レアアースと希土類系ボンド磁石」(大森賢次BM協専務理事、6月17日)、第3回：「ソフト磁性材料と圧粉磁心」(ネオジム焼結磁石)(五十嵐和則/三菱マテリアル、7月22日)が決定しました。多岐に渡るボンド磁性材料の真髓をその基礎から応用までを前掲の講師の先生方に講義して頂きます。是非皆様にご参加頂き、皆さんと共に勉強したいと考えてい

ます。

見学会についてはHEV/EV関連で2011年2月頃の実施を計画しておりましたが、技術委員長の不行届きにより、実行できていません。

技術委員会内の議論としてはBMニュースのCD化があります。現状ではCD化に伴う広告のあり方が整理しきれておらず、閲覧にPCを必要としない冊子の存在価値を見直す方向にあります。当面、BMニュースは印刷物として発行するとの結論になっています。今後の方向としては、閲覧もCD化を超えてWebからのアクセスとWebにおける広告のあり方を議論する方向に変化するものと考えられます。

JABM30周年記念行事の準備委員長として藤平委員が就任され、活発な行事内容に関する議論が継続しています。記念行事そのものは2011年12月9日開催のBMシンポジウムの際に行うことになっています。基本的には30周年記念講演と展示が検討されています。30周年記念行事では過去の重要な技術開発を振り返ると同時にJABMの未来を描くことのできる有意義なものにしたいと考えています。JABM30周年は協会を挙げての大きなイベントになります。この機会に我々を取り巻く現在の政治や経済の動向を把握し、JABMおよび協会員の皆様の将来のあるべき姿を考察することが有益であろうと考えます。

6月3日に開催されます総会をもって、マグエックスの伊田壮次期技術委員長に引継ぎます。技術委員長として、1年間楽しく仕事をさせて頂きましたが、多くのご協力やご指導を頂き、感謝申し上げます。今後とも、協会活動に対する更なるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。